



善前小だより

No.11 平成31年1月号
1月8日 発行
住所 南区太田窪2500番地1
電話 882-7871 FAX 811-1329
ホームページ <http://zenmae-e.saitama-city.ed.jp>

「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずむ心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

しっかりとした 目標をもとう

校長 小田切 倫子

平成31年、平成最後となる新しい年を迎えました。大きな節目にあたり、この一年が皆様にとって穏やかで実りある年となりますことを、心から祈るばかりです。

さて、今日から学年の締めくくりの3学期です。子どもたちは、どのような思いをもってスタートしたでしょうか。

私は、箱根駅伝のファンです。(とは言いましても、もっぱらテレビをとおしての応援ですので、“ファン”というのはちょっとおこがましい気もしますが・・・) アップダウンのある道を必死で走り、全力でたすきをつなぐ姿から、大きなパワーをもらいます。どれだけの練習を重ねたのでしょうか。けがをして苦しい思いをした選手のエピソードも紹介されました。どの選手の走る姿を見ても、箱根駅伝を目指して懸命に努力してきたことが、テレビの画面からでも伝わってきます。

と同時に、いつも箱根駅伝を目指しながらも晴れの舞台には立てなかったたくさんの選手のことを考えます。当日の選手交代もありました。ほんの少しの差で、エントリーされなかった選手もいることでしょうか。悔しい気持ちを抱きながらも気持ちを切り替え、きっとチームのために一生懸命サポートをしたのではないのでしょうか。また、練習する中で、自分の実力では選手になることは難しいかもしれないと感じながらも、可能性を信じて、果敢にチャレンジした選手もいたことでしょうか。『選手』となることを目指すのではなく、『走る』ことにひたすら打ち込んだ学生もいたかもしれません。さらには、選手を支える家族やマネージャー、運営スタッフなど、箱根駅伝に携わる数多くの方々それぞれのドラマへも思いを馳せながら見ると、感慨深いものがあります。

人は、一人ひとり実力や経歴、思いや願いなどに違いがありますから、箱根駅伝という大きな舞台一つをとっても、皆が全く同じ目標をもっているわけではありません。それは、どのスポーツをとっても、また、スポーツ以外のことでも言えるのではないのでしょうか。でも、何かに向かって一生懸命努力をするということは、目指す舞台の大きさや目標の高さにかかわらず、等しく価値のあることだと思うのです。それは大人も子どもも同じです。もちろん、子どもにはより多くの可能性がありますから、大きな夢を抱いて欲しいと思います。大切なのは、今の自分より何か少しでもよくするための努力をすること。人として、生涯成長し続けようとする心を忘れないこと。箱根駅伝を見ると、いつも「今年もがんばろう」という気持ちになります。だから、私は箱根駅伝を見るのが大好きです。

今日の始業式では、しっかりとした目標をもとうという話をしました。では、どうすることで“しっかりとした”目標になるのでしょうか。コツを2つ紹介しました。

一つ目は、数字を入れること。目標そのものに数字を入れることもいいでしょう。目標を実現するための方策に数字を入れることもいいでしょう。

二つ目は、続けること。続けることで、大きな力となります。

善前小学校は、子どもたちを夢の実現に向かって導けるよう、全教職員が一丸となって努力してまいります。本年も、どうぞよろしく願いいたします。